



港北区青少年指導員協議会広報紙

# 港北青指

第 41 号

平成 30 年 6 月 発行

発行者

港北区青少年指導員協議会

編集 広報委員会

事務局

港北区大豆戸町26-1

港北区役所地域振興課内

TEL 045-540-2240

FAX 045-540-2245

港北青指



検索



## 第 26 期 スタートにあたって

港北区青少年指導員協議会会長

白石 友恵

皆様、初めまして。このたび、第26期港北区青少年指導員協議会会長を務めさせて頂くこととなりました白石友恵です。青少年健全育成を目的とする青少年指導員の活動に、前任の石井一也会長のもと副会長として一緒に携わって参りました。

港北区の青少年指導員協議会では、挨拶をきっかけに青少年との信頼関係の一步を築く「一声かけ運動」、ペットボトルのリサイクルを通じて環境問題を考え、ロケットの作成や発射を通じて、親子の交流や子どもたちの夢を育む「ペットボトルロケット大会」、自然環境を考えながら参加者同士の交流、異学年の交流、リーダーシップを育む「自然体験教室」、青少年を見守る「全市一斉パトロール」等を行っています。

青少年指導員制度は昨年度50周年を迎えました。節目の年を終え、改めて新役員及び164名の青少年指導員の皆様と共に、青少年の心に残るような活動を行って参りたいと思います。

時代が進み社会環境が変化しても、大人が想う子どもたちに対する愛情や、健やかに育ててほしいと願う気持ちは変わるものではないと信じています。

今後、より一層青少年の健全育成に取り組んでいきたいと思えます。皆様、ご指導ならびにご支援の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 区長着任にあたって

港北区長

栗田 るみ

今年4月に港北区長に着任しました栗田るみでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

青少年指導員の皆様には、青少年の健全育成のため、日頃から様々な活動に取り組んでいただき、心より感謝申し上げます。

港北区では、「活気にあふれ、人が、地域がつながる『ふるさと港北』」を基本目標に、地域の皆様とともにまちづくりに取り組んでおりますが、様々な行事や機会を通じて、子どもたちに、人と人のつながりの大切さや、地域の温かみを伝える青少年指導員の皆様の活動は、まさにその取組を実践していただいているものと感じております。

これから港北区は、2019年に区制80周年を迎え、更にラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピックという、世界的な競技大会の会場となります。こうした歴史的な出来事や経験を、子どもたちの明るい未来につなげていきたいと考えておりますので、引き続き、変わらぬお力添えをお願いいたします。

皆様のご健勝とご活躍を、心よりお祈り申し上げまして、挨拶の言葉といたします。

## 横浜市青少年指導員新シンボルマーク 神奈川県青少年指導員制度 50 周年記念誌

横浜市青少年指導員連絡協議会では、神奈川県青少年指導員制度50周年を契機として、あいちゃんマークにかわる、新たなシンボルマークを募集しました。

「青少年を見守る社会をサポートする横浜市青少年指導員のシンボルマーク」をテーマに、平成29年7月から10月までの期間で募集をし、計230点もの応募がありました。

応募された作品は、各区協議会や横浜市社会環境健全化部会において検討を行い、2月の横浜市青少年指導員連絡協議会定例会で、新たなシンボルマークが決定し、採用者が表彰されました。

また、横浜市青少年指導員連絡協議会では、平成29年度の青少年指導員制度50周年にあわせて、各区青少年指導員協議会の活動を記録した記念誌を発行しました。今後の活動の参考にさせていただきたいと考えております。



新シンボルマーク



# 第9回 自然体験教室

平成29年11月3日(金曜、文化の日)港北区青少年指導員協議会は、区内の小・中学生120名を引率し、神奈川県はやや北西部にある「宮ヶ瀬湖・県立あいかわ公園」において、平成29年度自然体験教室を実施しました。公園近くにある宮ヶ瀬ダムの放流見学も体験の目玉です。

3連休の初日。2週連続の台風続く3週目だけに心配された天気も、絶好の行楽日和です。区役所広場で開会式を行い、当日の予定や注意事項の説明後、大型バス4台に分乗しました。

道路は東名高速に乗る前から大渋滞です。最初の目的地宮ヶ瀬ダムの上に到着したときには既にダムの放流が終了間際。放流見学は残念な結果に終わりましたが、最大斜度35度という「インクライン」でダムの下に降りました。巨大なダムを背景に集合写真を撮った後、「大沢の滝」を見ながら「あいかわ公園」内のふれあい広場へ移動し昼食です。持参したお弁当を食べたのち、2グループに分かれて工芸体験およびふわふわドーム・冒険の森での外遊びを1時間ずつ体験しました。



宮ヶ瀬ダムを背景に全員で記念写真

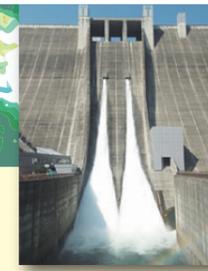
大沢の滝



インクライン



公園の地図は神奈川県立あいかわ公園のHPより、神奈川県の地図はGoogleマップより



## 宮ヶ瀬ダムと放流

県の2/3の地域に水を供給する宮ヶ瀬湖東岸にある宮ヶ瀬ダムは重力式ダムとして高さは日本第2位。4月~11月の間、年約70日行われる観光放流は、高低差70メートル、放流量30立方メートル/秒という、圧巻の人工瀑布です。(放流写真は国土交通省関東地方整備局のHPより)

## 工芸体験

公園内の工芸工房村では「藍染め」「紙すき」「機織り」「陶芸」「竹工」の5種類の体験ができます。今回は、1時間という時間の制約と、どの工芸も一度に体験できる人数に制限がありましたので、出発前に予め定めた「藍染め」を除く4種類の工芸のいずれかひとつを体験しました。

子どもたちにとってどれも初めての経験ですが、指導員の丁寧な指導のお陰ですぐに慣れ、一人前の職人気取りで作品づくりに熱中。なんとか作品が出来上がった頃に楽しい1時間が過ぎました。「機織り」と「竹工」、「紙すき」の作品はそのまま持ち帰りましたが、「陶芸」の作品は工房村で焼成等の仕上げ作業が必要でしたので、後日各地区の青少年指導員を通じて受け取りました。



陶芸

竹工

機織り

紙すき

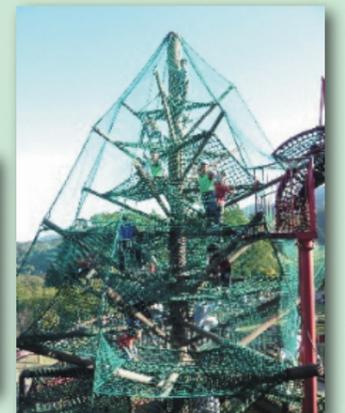
## 子供広場

### 「ふわふわドーム」と「冒険の森」

公園内の子供広場にある空気でふくらませた大きなトランポリン「ふわふわドーム」で遊びました。その場でぴよぴよ跳ねたり、ドームの上で走り回ったり、黙って座っていてもお友達のジャンプで飛ばされたりと、色んな遊び方で楽しめます。続いて、大型遊具がある「冒険の森」へ移動。「壁の迷路」に続く「巨大ツリー」では、見上げるような高さも何のその、われ先にと、てっぺんまでよじ登って時の経つのも忘れて大はしゃぎ。終了の合図がうらめしうでした。



壁の迷路



巨大ツリー

工芸体験の「静」に対してふわふわドームと冒険の森の「動」。豪快なダムの放流見学は出来ませんでしたが伝統工芸の体験と外遊びの余韻にひたりながら帰りのバスの中でアンケート用紙への記入などを行いました。また、参加賞として消防車型の消しゴムが手渡されました。

帰りの東名高速は往きと違って大変スムーズ。区役所へは予定通り無事到着し、閉会式を行い解散しました。



ふわふわドーム



区役所で出発前の諸注意



往きのバスでは早速クイズ



あいかわ公園へ



石井会長のあいさつ



インクラインでダムの下へ移動



宮ヶ瀬ダムの上でこれからの説明



「ふわふわドーム」は楽しい



ふれあい広場で昼食

食べたぞー!



今日は楽しかったな!



ごちそうさま



あれ!?弁当探しています

★のマークは何?



帰りのバスで爆睡



無事到着

## 神奈川県青少年指導員大会

平成29年11月12日(日)、高津市民館大ホールにて第50回神奈川県青少年指導員大会が開催されました。

同大会は、県内の青少年指導員が一堂に会し、日頃の活動成果の発表や講演等を通じて、相互理解と連携を深め、青少年指導員活動のより活発な展開を図るため、毎年開催されています。平成29年度は川崎地域の主催で、「思いやり、その大切さを“つなごう、心のあたたかさ”」をテーマに行われました。

オープニングは、川崎市立高津高等学校箏(そう)曲部による素晴らしい演奏で始まりました。

箏は琴とは異なるようですが、琴と同様の独特な音色を奏でる楽器で、会場も優雅でなんとも幻想的な雰囲気に包まれました。

事例発表では、中原区と高津区の青少年指導員協議会から、日々の活動の取り組み紹介があり、それぞれ地区ならではの特色、工夫が見られ、とても参考になりました。

講演は、「青少年育成に望ましい地域をどう築くか“防犯まちづくりと絆づくり”」と題した、立正大学文学部社会学科教授小宮信夫氏の講演でした。防犯や犯罪学の専門家でもあり、メディアでも有名な同氏の講演は、とても興味深く、すっかり話に引き込まれてしまいました。「友達との絆」「社会との絆」は安らぎを与え、「未来との絆」はときめきを与える。この3つの絆により非行は防止できるとのこと。

また同氏からは青少年指導員に対して、青少年指導員は子どもたちの良き模範、尊敬できる先輩＝メンターであってほしいとのメッセージもいただきました。新しく採用されたシンボルマークにもメンターの文字があるように、これからの青少年指導員のあり方を考える上での重要なキーワードであると思います。次回開催は県央地域です。(H・M)



## 青少年指導員制度50周年記念 平成29年度 横浜市青少年指導員大会

平成30年2月17日(土)、「青少年指導員制度50周年記念・平成29年度横浜市青少年指導員大会」が神奈川県立音楽堂ホールにて開催されました。

開会宣言に続き、任期中に亡くなられた青少年指導員の方へ黙祷を捧げた後、式典に移りました。市青少年指導員連絡協議会石井一也会長ならびに柏崎誠副市長の挨拶の後、永年勤続者224名の表彰が行われました。その後、来賓祝辞・紹介、今期青指を退任される区協議会会長の顕彰等が続き、「横浜市青少年指導員新シンボルマーク」の発表と作成者の表彰で第一部の式典が締めくくられました。

第二部は「子どもは歴史の希望～子どもの幸せを育む～」と題した記念講演です。講師は児童健全育成推進財団理事長鈴木一光氏。配布資料をもとに映像とユーモアを交えた講演は内容が濃く多彩で、しかも大変分かりやすいものでした。紙面の関係上、ごく一部を紹介いたします。機会あるごとに心したいと思いました。

- 子どもの独創力を伸ばすことが親の仕事で、「想像力」と「創造力」が独創力につながる。
- おなじ痛みであっても、「遊び」の痛みは友達と双方に生じるが、一方的に痛い思いをするのが「いじめ」であり、「遊び」とは根本的に違う。
- 親が子どもにものを教えるときのポイントは、まずルールを教え、その後は一歩退いて全体を見守ることである。(K・S)



## 神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会

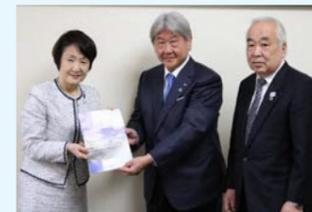
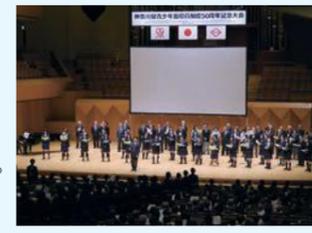
平成30年3月11日(日)、横浜みなとみらい大ホールにて神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会が開催されました。制度発足50周年の節目を記念し、これまでの活動を振り返るとともに、今後の活動の更なる活性化に向け、青少年指導員相互の意識の高揚を図り、また青少年指導員の存在を広く県民に知ってもらうためのアピールを兼ねた大会です。

陸上自衛隊高等工科学校ドリル部の演技、横浜市立樽町中学校文化部有志の合唱、7年前の今日起きた東日本大震災の犠牲者への黙祷の後、式典が開会されました。

式典では、第25期で退任する石井一也会長の「デジタルからアナログへ」というキーワードを用いた青少年指導員活動への期待、黒岩祐治県知事の今年の県政テーマ「子どもみらいをスマイル100歳に!」に向かって政策を進めているということ、横浜市の柏崎誠副市長からスピードスケートの小平奈緒選手の言葉を引用した「他者を認める」ことの大切さの話がありました。

記念講演は「プロジェクトX～挑戦者たちの素顔～」というテーマで元NHKエグゼクティブアナウンサーの国井雅比古氏の登場です。番組で取材した方々の中から、印象に残るエピソードを紹介していただき、面白くも興味深い話は流石という感じでした。冒頭、青少年指導員というボランティアの活動を初めて知り、その活動に共感したとおっしゃった氏のお言葉に感動し、これからも地道に励んでいかなければと思いました。この記念大会は私たち青少年指導員にとって意義のある大会でした。

後日、石井会長が横浜市役所を訪問し、林市長に県大会の開催報告と、記念誌の贈呈を行いました。林市長からは、これまでの青少年指導員の活動に対する労いのお言葉と、記念大会が成功裏に終了したことに対する感謝のお言葉をいただきました。(K・K)



## 第25期 港北区青少年指導員大会

平成30年3月20日(火)、新横浜グレイスホテルにて、第25期港北区青少年指導員大会が開催されました。佐々木貞貴副会長による開会宣言に始まり、石井一也会長、横山日出夫区長、港北区連合町内会小林辰雄会長より挨拶をいただき、多数のご来賓の方々のご臨席くださいました。

平成28・29年度の永年勤続者表彰では、22名の方々を紹介されました。

嶋村公監事による乾杯に続き歓談の時間では地域を超えた楽しい話題に華が咲いておりました。その後、スクリーンを使った「第25期 港北区青少年指導員協議会の活動報告」が行われ、神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会の様子が紹介されました。

最後に退任者代表へ感謝状贈呈が行われ、退任者を代表して石井一也会長より挨拶をいただきました。長きにわたり青少年指導員として、また区会長として従事された思い出をつづる挨拶に、思わず涙が溢れそうになった方も。多くの先輩方の大切な絆を引き継いでゆきたいと思います。

伊藤伸彦監事の閉会宣言による閉会の後も、会場では記念撮影などで盛り上がる楽しい大会となりました。(H・H)



## 石井一也前会長のご挨拶全文



石井 一也

顧みますと1984年(昭和59年)今から34年前、36歳の折に青少年指導員の委嘱を受けました。往時、巷ではディスコブーム(麻布のマハラジャ等)やマリニルックの流行に沸きかえり、ロス五輪の開催、グリコ森永事件の発生、経済面では第二次オイルショック後の繁栄期にありました。私たち青少年指導員制度の生い立ちは、昭和21年に遡ります。戦後間もない時、社会秩序の混乱は、道徳をみだし、青少年の不良化を増長させてしまいました。こうした事態に対処するため文部省が「児童愛護班活動」を推進する方針を決定し、その活動要綱を都道府県に通達し、翌昭和22年、本県で「児童愛護班」が結成され、昭和43年に現在の「青少年指導員制度」となりました。戦後の荒廃期・高度経済成長期・オイルショック・バブル期と大きなうねりを経て現在に至っておりますが、先を歩み、青少年指導員の歴史と信頼を私たちに残してくださった、多くの先輩各位に紙面をお借りいたし、深甚なる感謝の意を表したいと存じます。

本年、青少年指導員制度50周年の記念すべき節目を迎え、3月には「制度創設50周年記念大会」を、横浜みなとみらい大ホールにて盛大に開催することができました。厩越ながら、この節目に、あらためて自身の青少年指導員活動を振り返りますと、万感迫るものがございまして、何と言いましても素晴らしい先輩、仲間、そして多くの行政職員の皆さまと共に活動ができましたことが、大きな喜びであり、財産だと思っております。この、人と人との繋がりこそが、青少年指導員が50年の永きにわたり受け継いで参った大切な絆だと思います。時代がどんなに変わっても、青少年の健全育成に「熱い思いを持つ」多くの仲間が集い、その思いを次の世代へとしっかりと引き継いでいかなくはなりません。

平成22年には、神奈川県青少年保護育成条例に、青少年指導員の「立場」や「役割」が位置づけられ、更なる「誇り」と「自信」を持って活動を続けていく、大きな一歩となりました。「地域で育てよう!青少年」のスローガンのもと、地域の絆を深め、若者が夢や希望の持てる社会環境を築いてまいりましょう。結びになりますが、青少年指導員退任にあたり、新クルーでの船出に衷心よりご安航を祈っております。永い間、ありがとうございました。

## 編集後記



時が経つのは早いものです。ついこの前この編集後記で、広報委員も新たな体制でがんばります、と宣言したと思ったら、もう2年が過ぎ、委嘱替えです。今回は、区青少年指導員協議会の会長はもとより、市、県の青少年指導員連絡協議会の会長としても、長く青少年の健全な育成にご尽力いただいた石井会長の退任や、青少年指導員制度50周年の区切りもあり、港北区青少年指導員協議会も新たな船出となりました。広報委員も新メンバーを迎え、新たな気持ちでスタートします。(H・M)



25期 広報委員